

ギリシア神話



倅よ、辛いけれどもこの男はこのままそっと寝かして置こう、そもそも彼が討たれたのは、神々の思し召しによるのだからね。そなたはヘパイストスから賜った立派な武具を受け取っておくれ、かつていかなる男も肩につけたことのない、それは見事な品なのだから。

——ホメロス著『イリアス』第十九歌

世界中でもっとも有名な神話——ギリシア神話

詳しい内容までは知らなくとも、ギリシアにはゼウス(Zeus/Jupiter)^{*1}を頂点としたさまざまな神々について、英雄についての“物語”が存在することは多くの人の知るところであろう。

表紙に引用したホメロス(Homeros)の『イリアス(Ilias)』、そして『オデュッセイア(Odyseia)』、時代を遡ってヘシオドス(Hesiod)の『神統記(Theogonia)』などの歴史的・芸術的に価値の高い口誦詩などの口承によって、現代まで息づいている壮大な物語がこの「ギリシア神話(Greek mythology)」である。

小説・美術の題材となったり、映画としても取り上げられたりするので、神話の一部は日本でも馴染みのものといっても過言ではないだろう。今回の展示では、「木馬の計^{*2}」で名高い「トロイア戦争(Trojan War)」を主テーマとして取り上げ、ギリシア神話について書かれた本を紹介したい。

◆ ギリシア神話の口誦詩

タイトル	著者	訳者	配架場所	請求記号
イリアス (上) (下)	ホメロス	松平千秋	大学図・開架	081.2/33D ア/1549 081.2/33D ア/1550
オデュッセイア (上) (下)	ホメロス	松平千秋	大学図・開架	081.2/33D ア/1623 081.2/33D ア/1624
神統記	ヘシオドス	廣川洋一	大学図・書庫	081.2/33D/1404



*1 同様に有名な神話であるローマ神話の神々は、ギリシア神話の神々と同一視されている。現代の英語名称は、ローマ神話の名前をもとにしているため、そちらの方が有名になっているケースもある。アプロディーテよりヴィーナス、エロスよりもキューピッド、など。

*2 「トロイの木馬」というコンピュータウィルスは、この「木馬の計」が名前の由来となっているのは周知の事実。

悲劇の発端——トロイア戦争とは？

トロイア戦争は、トロイアの王子パリス(Paris)が、スパルタ王メネラーオス(Menelaos)の妃であるヘレネ(Helene)を略奪したことに端を発する。しかし、実際の開戦までの経緯には、神々や人間のさまざまな介入がある。

§ パリスの審判

中でももっとも有名なものは「パリスの審判」で知られるヘラ(Hera / Juno)、アテナ(Athene / Minerva)、アフロディーテ(Aphrodita / Venus)三女神の“美しさ勝負”であろう。ペレウス(Peleus)とティティス(Thetis)（アキレウスの母で海の精霊）の結婚式に唯一招待されなかった神、争いの神エリス(Eris / Discordia)が会場に投げ込んだヘスペリデスの黄金の林檎（「もっとも美しい者へ」と書かれていた）にだれが相応しいか審判を委ねられたパリスに対し、三女神がそれぞれの美を誇示した上、それぞれ自分を選んだ時には相応しい褒美を与えよう、と迫ったのである。パリスが選んだのはアフロディーテであり、その約束により美しき女性を手になることになったのだが、実はそれはすでにスパルタ王妃であるヘレネだったのである。絶世の美女として名高い彼女には、メネラーオスの他にも多くの求婚者が居たが、ヘレネの父ティンダレオス(Tyndareos)はヘレネが誰を選ぼうと、その選んだ相手が困難になった場合に助け合うように（選ばれた者を恨まぬよう）という約束をさせていた。したがって、メネラーオスが兄である強国ミュケナイの王アガメムノン(Agamemnon)に助けを求めた際、以前の求婚者の多くがこの戦争に参加することになったのである。

§ 英雄の参戦

智将オデュッセウス(Odysseus)や不死身の英雄アキレウス(Achilleus)も参戦している。ただし、オデュッセウスは参戦すると20年は故郷に戻れないという神託を受けていたため、はじめ狂人の振りをして参戦を回避しようとしていたが、見破られ参戦せざるを得なくなった（戻れなくなる件が、『オデュッセウス』に描かれる）。

アキレウスも、母ティティスが、この戦争にてアキレウス自身命を落としてしまうと予言したため、初め女の格好をして別の島に隠されていた。しかし、オデュッセウスに見破られ参戦することになる。アキレウスは、ヘレネの求婚者ではなかったが、不死身のアキレウスは是非とも参戦しな



ければならない逸材であったのである。戦争中は、一時アガメムノンとの諍いにより戦を放棄する場面も見られるが、最終的に、親友パトロクロスの敵であるヘクトルを討った後の蛮行や、神をも恐れるその行為が仇となり、アポロン(Apollon / Apollo)の命を受けたパリスに、その弱点の踵を矢で打ち抜かれてしまうのである。アキレウスの母ティティスが冥界にある不死の泉にアキレウスの全身を浸した際、踵部分を手に持ったままだった故、それが弱点となったと言われている（「アキレス腱」の由来）。

§ 王女カッサンドラの予言

トロイアの王女カッサンドラ(Cassandra)は、弓矢と豎琴の神アポロンに見初められて予知の力を得ることになる。しかし、与えられた直後、アポロンに身を委ねても自分が幸せになれないことを予知したため、アポロンの許から離れてしまう。神々といえども、一度与えてしまったものは覆せないのがオリュポスの理。アポロンは代わりに、誰もカッサンドラの言うことを信じないようにした。

これがトロイアの更なる悲劇を生んでしまう。戦況も終盤に差し掛かり、武力だけではトロイアを落とせないと悟ったオデュッセウスの策略により、かの有名な「木馬の計」が実行された。ギリシア軍の蛮行が女神アテネの怒りを買って、捧げ物として木馬を残し、ギリシア軍は壊滅させられたのだという。明らかに怪しげではあり、事実アポロン神殿の神官ラオコーン(Laokoon)は木馬の危険性を訴えた。しかし、その瞬間息子ともども大蛇に絞殺され、「アテネの怒り説」がますます真実味を帯びる結果となった。

もう一人、木馬の中にギリシア軍勢が入っていることを知っていたのはカッサンドラであったが、上述したように、カッサンドラの言葉は誰も信じなかったのである。かくして、トロイアは木馬の中のギリシア軍勢に全滅させられてしまうのである。

◆ トロイア戦争を題材にした展示本

タイトル	配架場所	請求記号
トロイア戦記	大学図・開架	081.2/61/1447
ヘレネー誘拐	大学図・開架	081.2/61/1586
トロイア戦争全史	大学図・開架	081.2/61/1891
海からの花嫁：ギリシア神話研究の手引き	大学図・開架	167/251
トロイア戦争とシュリーマン	大学図・開架	231/88
イリアス：トロイアで戦った英雄たちの物語	大学図・開架	973/31
美女ヘレネをめぐる英雄たち：ギリシア神話の世界	大学図・書庫	167/131

オリュンポス12神とティタン神族

ゼウスも、はじめから世界を統治していた訳ではない。カオス（混沌）から始まり、やがて大地の女神ガイア(Gaia)をはじめとするさまざまな神々が誕生するところから世界は始まったと『神統記』は述べている。ガイアは自力で次々の子どもを産んでいくのだが、自らが産み出した天空神ウラノス(Uranos)と交わり、ティタン神族と呼ばれる12神をもうけるのである。世界を初めに統べたのはウラノスであるが、やがてウラノスの振舞い(ガイアが生んだ醜い一つ目のキュプロス、百の腕を持つヘカトンケイルをガイアの腹の中＝大地に閉じ込めるなど)に我慢の限界を越えたガイア、そしてティタンの末弟クロノス(Kronos)により倒される。

しかしクロノスも、「子どもに討たれる」というガイア・ウラノスの予言のため、妻の大地の女神レア(Rea)との子どもを次々と自ら飲み込んでいくという仕打ち。レアはガイアに相談し、6人目の子を隠して育てるよう画策した。この子がゼウスである。レアは出産後、次の子と偽ってクロノスに石を呑み込ませたのである。

やがて成長したゼウスがクロノスの腹にいる兄弟姉妹たちを吐き出させた。彼らは来るべき戦いに向けて、オリュンポス山頂に本陣を構えたことから、ティタン神族との対比でオリュンポス神族と呼ばれている。やがて、ティタノマキア(ティタン神族とのたたかい)に勝利したオリュンポスが、ティタン神族を冥界タルタロスに閉じ込め、ゼウスによる支配が確立したのである。

◆ ギリシア神話の世界を堪能しよう！

まさに「じっくり読む」に相応しい資料がたくさんあります。たまには時間を忘れて、魅惑的な神話の世界に没頭するのも良いかもしれませんね。

タイトル	配架場所	請求記号
ギリシア神話と英雄伝説 (上)	大学図・開架	081.2/61/1166
(下)		081.2/61/1167
ギリシャ神話集	大学図・開架	081.2/61/1695
ギリシア神話 (上)	大学図・開架	Shincho/< 6/1
(下)		Shincho/< 6/2
ギリシア・ローマの神話：人間に似た神さまたち	大学図・開架	167/237
ギリシア神話を学ぶ人のために	大学図・開架	167/345
ギリシア神話入門：プロメテウスとオイディプスの謎を解く	大学図・開架	167/349
ギリシア神話	大学図・書庫	167/49
ギリシア神話	大学図・書庫	167/58
ギリシア・ローマの神話：人間に似た神さまたち	大学図・書庫	167/84
ギリシア神話：西欧文化の源流へ	大学図・書庫	167/103

◆ 美術界でも多大な影響を誇るギリシア神話

神話をモチーフにした美術作品は数多くあります。絵画としては、ポッティチェリ「ヴィーナス誕生」、ルーヴェンス「パリスの審判」、彫刻「ミロのヴィーナス」などなど、有名な作品だけを取り上げて枚挙に暇がないし、作品に限らず、世界遺産でもあるパルテノン神殿などは、それ自体が非常に神話的であるといえます。

ここでは、美術の主題となったギリシア神話、及び建築物、歴史的発掘物などの写真を見ることができる資料を紹介しています。

タイトル	配架場所	請求記号
ギリシア神話	大学図・開架	167/204
西洋美術の主題と物語：ギリシャ神話と聖書から	大学図・開架	702.3/235
描かれたギリシア神話：写真絵巻	大学図・開架	751/182
ギリシア神話の世界：ビジュアル版	女大図・開架	162/211

◆ 気軽に読めるギリシア神話

本を読むとなぜ眠くなるのでしょうか…。そんな人にお勧めの本を、ここでは紹介しています。とくに、『ギリシア神話ろまねすく』は非常に興味深い切り口で神々や英雄を紹介しています。女性・恋愛・星座などなど、良く知られているあのエピソードも、実はギリシア神話のもとになっていた！といった発見も期待できそうです。また、文章ではなく図や写真、イラストで神話を紹介することで、入門編としてこれらの本を“じっくり読む”と、新たな発見があるかもしれません。

『ギリシア神話を知っていますか』と『ホメロスを楽しむために』は、阿刀田高の名著です。文章は多いですが、阿刀田氏の語り口が軽快であり、こちらで紹介しました。

タイトル	配架場所	請求記号
愛と変身のギリシア神話	大学図・書庫	167/192
ギリシア神話：図解雑学	大学図・開架	167/299
図解知れば知るほど面白いギリシア神話	大学図・開架	167/367
ギリシア神話ろまねすく	大学図・開架	167/372a
ギリシア神話を知っていますか	大学図・開架	Shincho/あ 7/4
ホメロスを楽しむために	大学図・開架	Shincho/あ 7/24

◆ トロイア発掘への軌跡——シュリーマン

ハンリッヒ・シュリーマン(*Johann Ludwig Heinrich Julius Schliemann*)は、19世紀末、トロイアの遺跡を発掘しました。自伝と、その後の研究では多少意見が食い違う部分がありますが、事実としてトロイアが実在することを証明した功績は非常に大きいといえます。

彼が歩んだ軌跡の物語が、ここで紹介する本に描かれています。彼はその発掘過程で、トロイアの他にも「アガメムノンのマスク」なども発見しました。

タイトル	配架場所	請求記号
古代への夢：トロヤに憑かれた男シュリーマン	大学図・書庫	289.3/193
シュリーマン：黄金と偽りのトロイ	大学図・開架	289.3/567
トロイアの秘宝：その運命とシュリーマンの生涯	女大図・開架	289.3/Sch39/3
古代への情熱：シュリーマン自伝	大学図・開架	Shincho/シ 10/1

終りにかえて——ギリシア神話のエピソード

ギリシア神話には、他にもさまざまなエピソードが満載である。星空を見上げれば星座の多くはギリシア神話に由来しているし、いわゆる故事として有名なものに「パンドラの匣」、精神科学用語となったエディプス（オイディプス）/エレクトラ・コンプレックス、ウィルスの由来となった「トロイの木馬」、ナルキッソス（ナルシスト）、などなど。読み込んでいくと、「これもギリシア神話だったんだ!」と思うような逸話が満載なのである。

あるいは、日本神話で、イザナギが亡くなったイザナミに逢いに黄泉の国へ赴く件などは、オルフェウスが妻エウリュディケを連れ戻しに冥界へ行くエピソードと似ている。また、エピメテウスとパンドラの娘ピューラと、その夫でプロメテウスの子デウカリオンがゼウスの起こした大洪水を自身らがつくった船で生き残る件があるが、どちらかといえば旧約聖書の「ノア方舟」のエピソードの方が良く知られている。ギリシア神話の影響力は、ローマ神話に限ったことではないのである。

幾つかのエピソードとそれにまつわる本を紹介してきたが、まだまだ語り切れるものではない。これを機に、是非ギリシア神話の世界に触れて欲しいと願う。特に、「◆ 気軽に読めるギリシア神話」で紹介している本は、挿絵がユニークだったり、切り口が絶妙だったり、語り口が軽快だったり、本が苦手な人でも楽しめる内容となっている。



じっくり読みたい ギリシア神話の本
平成 21 年 6 月 1 日発行
担当：運用課 佐藤